

科目名 (英)	キャリアデザイン I Career Design I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	火～金 / 5～6限
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし今後の歯科技工業界を見据え、必要な知識を深める授業をゲスト講師とともに進行。						
目的	歯科技工士の業務と歯科技工士の歯科医療における役割について理解する。						
科目概要	「歯科医療界の動向について」を大きなテーマに、歯科医療の現場で活躍する卒業生や企業の採用担当者を通じて諸事例から将来像を明確にし目標設定する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医療界の動向について、その概略が理解できる。 ・歯科医療界の動向を踏まえた、自らの将来の目標を立てることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、レポートで行う。最終レポート80点、小レポート20点の100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし						
参考図書	別途、授業内で紹介する。			事前事後 学習と その内容	事前学習： 来校企業のホームページで会社概要の確認を推奨する		
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。				事後学習： 企業の開催する説明会やインターンシップに参加することを推奨する。		

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	社会人基礎力を磨く	講義	<p>ゲスト講師：歯科技工所・歯科医院の採用担当者</p> <p>歯科技工所や歯科医院の採用担当者が、歯科技工士としてだけでなく、社会人としての心構えについて講義する。この講義を通じ、社会人基礎力で必要なことは何かを理解する。</p>
2	歯科技工士の働き方と求められる人材 1	講義	<p>ゲスト講師：歯科技工所経営者</p> <p>歯科技工所の経営者が、歯科技工所における歯科技工業務ならびに求められる人材について講義する。この講義を通じ、社会人基礎力で必要なことは何かを理解する。</p>
3	歯科技工士の働き方と求められる人材 2	講義	<p>ゲスト講師：歯科医院院長または採用担当者</p> <p>歯科医院院長または採用担当者が、歯科医院内における歯科技工業務ならびに求められる人材について講義する。この講義を通じ、社会人基礎力で必要なことは何かを理解する。</p>
4	歯科技工士の働き方と求められる人材 3	講義	<p>ゲスト講師：歯科材料メーカー採用担当者</p> <p>歯科材料メーカー採用担当者が、企業における歯科技工士の役割ならびに求められる人材について講義する。この講義を通じ、社会人基礎力で必要なことは何かを理解する。</p>
5	活躍する卒業生 1	講義	<p>ゲスト講師：本校卒業生(卒後1年目)</p> <p>卒業後1年目の卒業生が、仕事に就くために学生のうちから心掛けておくこと、職場における新人歯科技工士の役割、自身の将来の目標などについて講義する。この講義を通じて近い将来を具体的にイメージし、今後の学校生活で取り組むべきことを明確にする。</p>
6	歯科技工所職員との対話	講義	<p>歯科技工所の職員を迎え、仕事の紹介を聞き、対話を通じて自らの将来像を明確にする。職員との対話は実践演習であるので、スーツを着用し、対話の態度についても実践する。</p>
7	活躍する卒業生 2	講義	<p>ゲスト講師：本校卒業生(卒後3～5年程度)</p> <p>卒業後3～5年程度経験を積んだ卒業生が、職場における自身の役割の変化、ステップアップなどについて講義する。この講義を通じ、歯科技工士としての将来像を明確にする。</p>
8	活躍する卒業生 3	講義	<p>ゲスト講師：本校卒業生(卒後10年程度・独立開業)</p> <p>卒業後に経験を積んで独立開業した卒業生が、独立までの準備や、何をしておくべきかについて講義する。この講義を通じ、独立開業という歯科技工士の働き方の選択肢を習得する。</p>

科目名 (英)	英会話入門 Basic Skills for English Conversation	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	ラリーパーマー
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月/6限
講師紹介	英会話スクールおよび様々な学校で英語を教えているネイティブスピーカーの教員が本格的な発音を重視し、授業を行う。						
目的	歯科技工士に必要な英会話を習得する。						
科目概要	海外の歯科展示会へ参加したときや、海外での就労時に必要なコミュニケーション力について理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の歯科技工士を職場に招待するための英会話ができる。 ・海外の展示会に参加するときに必要な英会話ができる。 ・海外で働くために必要な英会話ができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。</p> <p>欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯科英語」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事後学習: 授業の内容を振り返り、理解を深めることを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	必要に応じてプリントを配布する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	あいさつ	講義	コミュニケーションの基本であるあいさつについて理解する。
2	海外の技工士を職場に招待する	講義	海外の技工士を職場に招待するための会話を理解する。
3	海外の展示会に参加するー①	講義	海外の展示会に参加するための会話を理解する。
4	海外の展示会に参加するー②	講義	海外の展示会に参加するための会話を理解する。
5	海外で働くー①	講義	海外で働くための会話を理解する。
6	海外で働くー②	講義	海外で働くための会話を理解する。
7	まとめ	講義	6回目までのまとめを行う。
8	総まとめ	講義	授業内容を振り返り、英会話を実践する。

科目名 (英)	歯の解剖学応用 I Dental Anatomy-Advanced I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月/6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連づけて授業を行う。						
目的	歯科技工士として必要な口腔に関する専門的知識を習得する。						
科目概要	頭部の骨や筋肉、顎関節、口腔内の器官(舌、唾液腺)について基本的な知識を、講義やグループワークを通じて理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部の骨(頭蓋骨)の構造を説明することができる。 ・頭蓋骨の中で、歯科技工士にとって重要な咬合を構成する下顎骨、上顎骨の重要部分名称を説明することができる。 ・下顎を動かす筋である咀嚼筋、舌骨上筋の種類とその作用、それぞれの支配神経を説明することができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出题する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)	事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスおよび教科内容を確認し、教科書を読んでおくこと。				
参考図書	別途、授業内で紹介する。		事後学習: 授業の最初に実施する前回分の内容の確認テストを復習すること。				
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	頭蓋骨、下顎骨	講義	頭部の筋を理解する上で必要となる、頭蓋骨の分類と下顎骨の重要な部分名称を確認する。
2	上顎骨・硬口蓋	講義	上顎骨の重要な部分名称を理解する。また、義歯が設計される硬口蓋の骨構成(上顎骨と口蓋骨)を理解する。
3	側頭骨・蝶形骨	講義	頭部の筋や顎関節を理解する上で必要となる、側頭骨と蝶形骨について確認する。
4	深頭筋(咀嚼筋)	講義	下顎の動きを理解する上で重要である咀嚼筋の種類と作用について確認する。
5	舌骨上筋	講義	下顎の動きを理解する上で重要である舌骨上筋種類と作用について確認する。
6	筋の作用・付着部位	講義	咀嚼筋・舌骨上筋の作用を理解し、下顎運動を確認する。 咀嚼筋・舌骨上筋の付着部位(下顎骨)を確認する。
7	浅頭筋(顔面筋)	講義	深頭筋違いを明確にし、浅頭筋(顔面筋)について理解する。
8	復習	講義	1～7のプリント、小テストを復習し、試験に備え自身の知識を理解する。

科目名 (英)	歯の解剖学応用Ⅱ Dental Anatomy-Advanced Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月/6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連づけて授業を行う。						
目的	歯科技工士として必要な口腔に関する専門的知識を習得する。						
科目概要	顎関節、口腔内の器官(舌、唾液腺)、歯の発生について基本的な知識を、講義やグループワークを通じて理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・顎関節の構成と特徴、その機能を理解できる。 ・口腔の構造、舌の構造(舌乳頭、舌筋)と役割、唾液腺の種類と特徴を理解できる。 ・歯、歯周組織の発生由来と歯冠の発生、歯根の発生の概要を理解できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出题する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)	事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスおよび教科内容を確認し、教科書を読んでおくこと。				
参考図書	別途、授業内で紹介する。		事後学習: 授業の最初に実施する前回分の内容の確認テストを復習すること。				
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	顎関節	講義	顎関節の構成と特徴、顎関節に関与する筋と下顎運動について理解する。
2	口腔・舌	講義	口腔領域の分類(口腔前庭と固有口腔)を理解する。 舌の各部名称と舌表面にみられる特殊粘膜である舌乳頭の種類と特徴を理解する。
3	舌筋	講義	筋肉の塊である舌を構成する内舌筋と舌の位置を変える外舌筋の種類と働き、支配神経について理解する。
4	唾液腺	講義	唾液腺の種類と特徴について理解する。
5	唾液腺	講義	唾液腺のそれぞれの存在部位と開口部位について理解する。
6	発生由来	講義	歯、歯周組織の発生由来を理解する。
7	歯の発生	講義	歯冠の発生、歯根の発生の概要を理解する。
8	復習	講義	1～7のプリント、小テストを復習し、試験に備え自身の知識を理解する。

科目名	歯型彫刻応用 I	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	田村 睦
		授業形態	実習		有		
(英)	Advanced Training of Dental Carving I	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～金 / 5、6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連づけて歯型彫刻の手法を指導する。						
目的	歯科技工士にとって基礎知識となる歯の形態的特徴を歯型彫刻で立体的に表現できる。						
科目概要	見本模型を見ずにFDI 16・FDI 46の面取りから荒彫りまで模刻を行い形態的特徴を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・FDI 16・FDI 46の面取りを見本模型やプリントを見ないでできる。 ・FDI 16・FDI 46の荒彫り(主溝と外形)が見本模型を見ないでできる。 ・FDI 14の面取り～仕上げ彫り、FDI 44の面取りが見本模型やプリントを見て正確にできる。 						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後学習とその内容	事前学習: シラバスを確認し、必要な道具類を準備して授業に臨むと良い。動画を視聴し動作のイメージを掴むと良い。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。				事後学習: 毎日30分程度、自主的な練習に取り組むと良い。		
特記事項	国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	FDI 16 デッサン、見て面取り	実習	16 の形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。面取りの手順を確認し、見本模型やプリントを見ないで製作する。
2	FDI 16 見ないで面取り	実習	16 の面取りを見本模型やプリントを見ないで製作する。
3	FDI 16 見て面取り～荒彫り	実習	16 の面取りから荒彫りを見本模型を見ないで製作する。
4	FDI 16 見ないで面取り～荒彫り	実習	16 の面取り～荒彫りを見本模型やプリントを見ないで製作し、完成後に見本模型と見比べて確認、修正を行う。
5	FDI 46 デッサン、見て面取り	実習	46 の形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。面取りの手順を確認し、見本模型やプリントを見ないで製作する。
6	FDI 46 見ないで面取り	実習	46 の面取りを見本模型やプリントを見ないで製作し、完成後に見本模型と見比べて確認、修正を行う。
7	FDI 46 見て面取り～荒彫り	実習	46 の面取りから荒彫りを見本模型を見ないで製作する。
8	FDI 46 見ないで面取り～荒彫り	実習	46 の面取り～荒彫りを見本模型やプリントを見ないで製作し、完成後に模型と見比べて確認、修正を行う。
9	FDI 16 面取り～荒彫り～仕上げ彫り	実習	16 の面取り～荒彫り～仕上げ彫りをできるだけ見本模型を見ないで練習し、16の形態的特徴を立体的に製作する。
10	FDI 46 面取り～荒彫り～仕上げ彫り	実習	46 の面取り～荒彫り～仕上げ彫りをできるだけ見本模型を見ないで練習し、16の形態的特徴を立体的に製作する。
11	FDI 16・FDI 46 面取り～荒彫り～仕上げ彫り	実習	見本模型を見ないで16・46の形態的特徴を立体的に表現できるように反復練習する。
12	FDI 14 デッサン、見て面取り	実習	14 の形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。面取りのステップ毎にチェックを受け、見本模型を正確に製作する。
13	FDI 14 面取り～荒彫り 模 刻	実習	14の面取り～荒彫りをステップ毎にチェックを受けながら、見本模型を見て正確に製作する。
14	FDI 14 荒彫り～仕上げ彫り 模 刻	実習	14の荒彫り～仕上げ彫りをステップ毎にチェックを受けながら、見本模型を見て正確に製作する。
15	FDI 44 デッサン、見て面取り	実習	44 の形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。面取りのステップ毎にチェックを受けながら、見本模型を見て正確に製作する。

科目名 (英)	歯型彫刻応用Ⅱ Advanced Training of Dental Carving II	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	火、木、金 / 5、6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連づけて歯型彫刻の手技を指導する。						
目的	歯をつくる歯科技工士にとって基礎となる歯型彫刻の反復練習を通じて、歯の形態的特徴を立体的に表現する。						
科目概要	FDI 26・FDI 36の面取り、荒彫りを見本模型を見ないで製作する。FDI 44・FDI 45の模刻を通じて、彫刻技術の向上を図る。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・FDI 44・FDI 45の面取り～仕上げ彫りを見本模型を見て正確に製作できる。 ・FDI 26・FDI 36の面取り～荒彫りを見本模型やプリントを見ないで製作できる。 ・FDI 21の荒彫り、FDI 23の面取りを見本模型を見ないで製作できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を70点、レポートの評価を30点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスを確認し、必要な道具類を準備して授業に臨むと良い。動画を視聴し動作のイメージを掴むと良い。 事後学習： 毎日30分程度、自主的な練習に取り組むと良い。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	FDI 45 デッサン、見て面取り	実習	45 の形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。 面取りをステップ毎にチェックを受け、正確に製作する。
2	FDI 45 面取り～荒彫り 模 刻	実習	45の面取り～荒彫りをステップ毎にチェックを受け、正確に製作する。
3	FDI 44・FDI 45 荒彫り～仕上げ彫り 模 刻	実習	44・45の荒彫り～仕上げ彫りをステップ毎にチェックを受け、正確に製作する。
4	FDI 44・FDI 45 荒彫り～仕上げ彫り 模 刻	実習	44・45の荒彫り～仕上げ彫りをステップ毎にチェックを受け、正確に製作する。
5	FDI 36 デッサン、見ないで面取り	実習	36 の形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。 面取りの手順を確認し、見本模型やプリントを見ないで製作する。
6	FDI 36 見ないで面取り～荒彫り	実習	36 の面取り～荒彫りを見本模型やプリントを見ないで製作し、 完成後に見本模型と見比べて確認、修正を行う。
7	FDI 36 見ないで荒彫り～仕上げ彫り	実習	36 の荒彫り～仕上げ彫りを見本模型を見ないで製作し、 完成後に見本模型と見比べて確認、修正を行う。
8	FDI 26 デッサン、見ないで面取り	実習	26 の形態的特徴を確認し、外形のデッサンを行う。 面取りの手順を確認し、見本模型やプリントを見ないで製作する。
9	FDI 26 見ないで面取り～荒彫り	実習	26 の面取り～荒彫りを見本模型やプリントを見ないで製作し、 完成後に見本模型と見比べて確認、修正を行う。
10	FDI 26 見ないで荒彫り～仕上げ彫り	実習	26 の荒彫り～仕上げ彫りを見本模型を見ないで製作し、 完成後に見本模型と見比べて確認、修正を行う。
11	技工Ⅱ部1年生との合同実習 FDI 26 面取り～荒彫り	実習	1年生に見本模型を見ないで面取り～荒彫りするところを見学してもらい、 1年生の角柱～面取りの指導を行う。
12	FDI 21 見て面取り～荒彫り	実習	21 の形態的特徴、面取りの手順を確認し、見本模型やプリントを見ないで製作する。 チェック修整後、荒彫りの製作を行う。
13	FDI 21 見ないで面取り～荒彫り	実習	21 の面取りを見本模型やプリントを見ないで製作し、 完成後に見本模型と見比べて確認、修正後、荒彫りの製作を行う。
14	FDI 23 デッサン、見て面取り	実習	23 の形態的特徴を確認し、外形のデッサンを描く。 面取りの手順を確認し、ステップ毎にチェックを受け、正確に製作する。
15	FDI 21 見ないで面取り～荒彫り FDI 23 見ないで面取り	実習	21 見ないで面取り～荒彫りを45分間で製作する。 23 見ないで面取りを30分間で製作。60点以上を合格とする。

科目名 (英)	顎口腔機能学応用 Stomatognathic Function Science-Advanced	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月、火 / 6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有した教員が、臨床事例と関連づけて授業を行う。						
目的	歯科技工士として必要な咬合・咬合器に関する専門的知識を習得する。						
科目概要	咬合・咬合器に関する基本的な知識について、講義やグループワークを通じて理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯列にみられる形態と咬合に関する平面について説明できる。 ・咬合器の分類とその特徴について、半調節性咬合器の使用手順と調節方法について説明できる。 ・咬頭嵌合位での咬合接触、偏心位での咬合接触について説明できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出题する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「顎口腔機能学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスを確認し、必要な道具類を準備して授業に臨むと良い。動画を視聴し動作のイメージを掴むと良い。 事後学習: 毎日30分程度、自主的な練習に取り組むと良い。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯列にみられる形態と咬合に関する平面について	講義	正常な顎口腔系で観察できる歯列の形態について習得する。 また、有床、修復、矯正など歯科技工学で必要となる、咬合に関する平面を習得する。
2	咬合器の分類とその特徴について	講義	歯科技工操作を行うにあたって使用する咬合器の分類、機構とそれぞれの特徴を習得する。
3	半調節性咬合器について	講義	1年次に行なったフェイスボウトランスファーの実習を復習し、半調節性咬合器の使用手順と調節方法について習得する。
4	歯の接触様式について	講義	咬頭嵌合位での咬合接触について理解し、機能咬頭と非機能咬頭の役割、被蓋について習得する。
5	咬頭嵌合位での咬合接触について	講義	咬頭嵌合位での咬合接触について、咬頭対辺縁隆線と咬頭対窩の2つのタイプについて習得する。
6	偏心位での咬合接触について	講義	偏心位での咬合接触(咬合様式)の犬歯誘導咬合とグループファンクションの違いについて習得する。
7	偏心位での咬合接触について	講義	偏心位での咬合接触(咬合様式)の両側性平衡咬合と、前回までの咬合様式についてそれぞれの特徴を習得する。
8	復習	講義	1～7のプリント、小テストを復習し、試験に備え自身の知識を理解する。

科目名 (英)	歯科理工学基礎Ⅳ Dental Materials Science-BasicⅣ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日・時間	月/5限
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし歯科材料の基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ知識を事例を交えて授業を行う。						
目的	歯科技工士が製作に用いる材料に関する知識や特性、取り扱い方法を習得する。						
科目概要	精度の良い鑄造体を得るため歯科精密鑄造に用いるスプルー・湯だまり・エアレントの種類と効果、埋没材の種類・組成・性質・取扱い方法を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・埋没材の性質や取扱い方法について理解できる。 ・歯科鑄造について理解できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	【最新歯科技工士教本 歯科理工学】(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習としては、教科書および実習プリントを振り返り、使用材料や取り扱いの方法を確認しておくが良い。また、実習で使用していない材料については教科書等を読み、材料名などを事前に覚えておくことを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	STEP15 鑄造の基礎	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・鑄造理論を理解する。 ・金属の液体-固体反応と鑄造収縮と鑄造収縮について理解する。 ・結晶粒と結晶粒界について理解する。
2	STEP17 スプルー・湯溜り・エアレント	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・スプルー(所要性質、素材、形状)について理解する。 ・湯だまり(設置の目的、形状、省略方法)について理解する。 ・エアレント(設置の目的、種類)について理解する。
3	STEP18 埋没材(鑄型材)-1	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・埋没材の所要性質を理解する。 ・埋没材の組成(耐火材、結合材)について理解する。 ・埋没材の種類(石膏系、非石膏系)について理解する。
4	STEP18 埋没材(鑄型材)-2	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・石膏系埋没材(クリストパライト埋没材、石英埋没材)の硬化膨張、加熱膨張、吸水膨張、通気性、機械的性質について理解する。
5	STEP18 埋没材(鑄型材)-3	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・非石膏系埋没材(リン酸塩系埋没材、チタン専用埋没材)の膨張、通気性、機械的性質について理解する。
6	STEP19 埋没操作	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・埋没操作に用いるもの(円錐台、鑄造リング、リングライナー、界面活性剤)の使用目的、使用方法について理解する。
7	STEP15～18 歯科鑄造のまとめ	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・STEP15～19の復習を行い定期試験に備える。
8	定期試験と解説講義	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・STEP15～19の内容について試験を行う。 ・試験終了後は自己採点を行い理解度を確認する。 ・自己採点後は試験の解説講義を行い知識を定着させる。

科目名 (英)	歯科理工学基礎 V Dental Materials Science-Basic V	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日・時間	月 / 5限
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし歯科材料の基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つ知識を事例を交えて授業を行う。						
目的	歯科技工士が技工物の製作に用いる材料に関する知識、取り扱い方法を習得する。						
科目概要	歯科精密鑄造に用いる鑄造用合金や融解熱源、鑄造機の種類と所要性質を理解する。また精度の良い鑄造体を得るための埋没操作、鑄型の加熱について理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・鑄造欠陥の原因と予防方法について理解できる。 ・歯科鑄造について理解できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	【最新歯科技工士教本 歯科理工学】(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習としては、教科書および実習プリントを振り返り、使用材料や取り扱いの方法を確認しておくが良い。また、実習で使用していない材料については教科書等を読み、材料名などを事前に覚えておくことを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	STEP20 鑄型の加熱	講義	・鑄型の加熱(加熱時期、加熱速度と加熱時間、加熱温度、鑄型温度、再加熱)について理解する。
2	STEP21 鑄造用合金	講義	・鑄造に用いる合金の所要性質、種類について理解する。
3	STEP22 合金の融解	講義	・合金の融解熱源(可燃性ガス、電気抵抗、高周波誘導、アーク)について理解する。 ・酸化と還元雰囲気、フラックスの効果について理解する。
4	STEP23 鑄造機	講義	・鑄造圧の種類とその特徴を理解する。 ・各種鑄造機(遠心鑄造機、加圧式鑄造機、吸引鑄造機)の特徴について理解する。
5	STEP24 鑄造欠陥①	講義	・鑄巣(引け巣、ブローホール)の原因と対策を理解する。 ・鑄込み不足(なねられ・湯境い、背圧多孔)の原因と対策を理解する。
6	STEP24 鑄造欠陥②	講義	・鑄肌あれの原因と対策を理解する。 ・ホットスポットの原因と対策を理解する。
7	STEP24 鑄造欠陥③	講義	・突起、バリの原因と対策を理解する。 ・偏析の原因と対策を理解する。 ・適合不良の原因と対策を理解する。 ・STEP20～24 の復習を行い定期試験に備える。
8	定期試験と解説講義	講義	・STEP20～24の内容について試験を行う。 ・試験終了後は自己採点を行い理解度を確認する。 ・自己採点後は試験の解説講義を行い知識を定着させる。

科目名 (英)	デジタル歯科技工基礎 Digital Dental Technology-Basic	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日・時間	月～金 / 5、6限
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有し、経験豊富な教員がデジタル歯科技工に必要な知識についてゲスト講師とともに授業を行う。						
目的	デジタル化の流れと各メーカーのCAD/CAMシステムを知り、最先端のデジタル歯科技工技術についての基本的な知識を習得する。						
科目概要	歯科用CADシステムについてメーカーごとの違いについて理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> デジタル時代に歯科技工士としての関わり方を理解できる。 小規模技工所がデジタルを導入するメリットを説明できる。 各メーカーのCAD/CAMシステムの概要を説明できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポートで行う。講義毎に課す4回のレポートを各100点満点で採点し、その平均点で評価する。各レポートの提出日は追って指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	事前学習： 日本デジタル歯科学会のホームページの確認を推奨する。 事後学習： 毎回の授業内容を復習することを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	デジタルデンティストリー①	講義	講師: 鍛治田 忠彦(株式会社CARESソリューションセンター) 急速に進むデジタル化の流れに技工士として実際にどのように関わるか理解する。
2			
3	デジタルデンティストリー②	講義	講師: 菅原 克彦(ケイエスデンタル代表) 急速に進むデジタル化の流れに技工士として実際にどのように関わるか理解する。
4			
5	松風のCAD・CAMシステム	講義	講師: 青木 亮一(株式会社 松風) 松風のCADCAMシステム、口腔内スキャナーについて理解する。
6			
7	口腔内スキャナー	講義	講師: 橘川 昌弘(デンツプライシロナ株式会社) セレックシステムについて理解する。
8			

科目名 (英)	デジタル歯科技工応用 Digital Dental Technology-Advanced	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	木・金/5・6限
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有し、経験豊富な教員がデジタル歯科技工に必要な知識についてゲスト講師とともに授業を行う。						
目的	臨床現場におけるCAD/CAMシステムの活用を知り、デジタル歯科技工技術の現状を認識する。						
科目概要	現在の歯科業界についてデジタル化がどのように取り入れられて、活用しているかを理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル時代に歯科技工士としてどのような関わり方をすれば良いか説明できる。 ・小規模技工所がデジタルを導入するメリットを説明できる。 ・各メーカーのCAD/CAMシステムの概要を説明できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポートで行う。講義毎に課す4回のレポートを各100点満点で採点し、その平均点で評価する。各レポートの提出日は追って指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	事前学習： 日本デジタル歯科学会のホームページの確認を推奨する。		
参考図書	なし				事後学習： 毎回の授業内容を踏まえて自身の進路について考えることを推奨する。		
特記事項	なし						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	各メーカーのCAD・CAMシステム	講義	講師:控井 洋平(YAMAKIN株式会社)
2			材料メーカーから見たデジタルの流れを理解する。
3	歯科技工所のデジタル歯科事情①	講義	講師:大澤 敏広(歯科技工士科Ⅰ部26期卒業生)
4			歯科技工所のデジタルの取り組みを理解する。
5	歯科技工所のデジタル歯科事情②	講義	講師:北蘭 里佐(歯科技工士科Ⅰ部26期卒業生)
6			歯科技工所のデジタルの取り組みを理解する。
7	歯科医院のデジタル歯科事情	講義	講師:尾崎 栞(歯科技工士科Ⅰ部31期卒業生)
8			歯科医院におけるデジタルの取り組みを理解する。

科目名 (英)	全部床義歯技工学 I Complete Denture Prosthetics I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	水/5限
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし全部床義歯の基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックを交え授業を行う。						
目的	全部床義歯(総入れ歯)の製作に関する基礎的技術及びその応用までの理論を習得する。						
科目概要	全部床義歯製作における印象採得～咬合床製作、ならびに人工歯排列～歯肉形成についての理論を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・印象採得～咬合床製作、ならびに人工歯排列～歯肉形成の工程、理論、その注意点を理解する。 ・印象採得～咬合床製作、ならびに人工歯排列～歯肉形成にあたって必要な予備知識を理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習: 教科書の該当ページをあらかじめ読むことを推奨する。 事後学習: 毎回の授業について復習することを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	授業に必要なプリントは随時配布する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	個人トレー	講義	個人トレーの構造、利点、製作手順を理解する。 全部床義歯用、部分床義歯用を比較し違いを理解する。
2	咬合床	講義	咬合床の構造、形態、製作手順を理解する。 全部床義歯用と部分床義歯用を比較し違いを理解する。
3	咬合採得	講義	咬合採得とは何か、実際の手順を理解する。 咬合採得後の咬合床に表されるもの、標準線を理解する。
4	リリーフ・ポストダム	講義	リリーフとは何か、リリーフすべき部位を理解する。 ポストダムとは何か、ポストダムの目的を理解する。
5	全部床の人工歯排列①	講義	全部床義歯の前歯部の排列を理解する。 臼歯部の平衡咬合を理解する。
6	全部床の人工歯排列②	講義	クリステンセン現象、ニュートラルゾーン、パウンドラインについて理解する。
7	全部床の歯肉形成	講義	歯肉形成の一般的な注意事項、各部の形態について理解する。
8	定期試験と解説講義	講義	第1回から第7回の内容について定期試験を行う。 ・試験終了後は自己採点を行い理解度を確認する。 ・自己採点後は試験の解説講義を行い知識を定着させる。

科目名 (英)	全部床義歯技工学 II Complete Denture Prosthetics II	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科 II 部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	水/5限
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有しており、その豊富な経験を活かし全部床義歯の基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックを交え授業を行う。						
目的	全部床義歯(総入れ歯)の製作に関する基礎的技術及びその応用までの理論を習得する。						
科目概要	全部床義歯製作におけるフラスコ埋没～重合～削合についての理論を理解し、無歯顎患者の口腔内にみられる特徴について理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フラスコ埋没～重合～削合の工程、理論、その注意点を理解する。 ・フラスコ埋没～重合～削合にあたって必要な予備知識を理解する。 ・無歯顎患者の口腔内にみられる特徴を理解する 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習: 教科書の該当ページをあらかじめ読むことを推奨する。 事後学習: 毎回の授業について復習することを推奨する。		
参考図書	なし						
特記事項	授業に必要なプリントは随時配布する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	全部床のフラスコ埋没～重合	講義	全部床義歯のフラスコ埋没の各方法、注意事項について理解する。
2	咬合器再装着～削合①	講義	咬合器再装着の各方法、選択削合、自動削合の概略を理解する。
3	削合②	講義	選択削合、自動削合の方法、人工歯の形態修正について理解する。
4	ランドマーク	講義	上下無歯顎模型上に見られるランドマークの名称とその活用方法、注意事項について理解する。
5	形態的基礎知識、機能的基礎知識、 審美的基礎知識	講義	抜歯後の状態、義歯装着による変化、義歯の審美的な変化の回復について理解する。
6	各基準平面・維持・安定、吸収	講義	カンペル平面、咬合平面、フランクフルト平面、下顎三角について理解する。 歯の欠損後の顎堤の吸収について理解する。 全部床義歯の維持、安定について理解する。
7	特別講義 義歯製作の流れ／咬合採得	講義	担当: 下平 修(昭和大学歯学部講師) DVD映像を見て全部床義歯製作の工程を振り返り理解する。 咬合採得で実際に行われている方法を理解する。
8	定期試験と解説講義	講義	第1回から第7回の内容について定期試験を行う。 ・試験終了後は自己採点を行い理解度を確認する。 ・自己採点後は試験の解説講義を行い知識を定着させる。

科目名 (英)	部分床義歯基礎実習 V Basic Training of Partial Denture Techniques V	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1	(コマ数)		曜日/時間	火・木/5・6限 金/5限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が部分床義歯製作に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	部分床義歯用の個人トレーや咬合床を製作するために、基本的な知識と技術を習得する。						
科目概要	部分床義歯の製作に関する理論と技術を理解し、部分床義歯用の個人トレーや咬合床を製作する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・部分床義歯の製作方法、製作上の注意点を理解する。 ・部分床義歯用の個人トレーの製作方法、製作上の注意点を理解する。 ・部分床義歯用の咬合床の製作方法、製作上の注意点を理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「実技試験」を40点、「作品提出」40点、その他、レポートの評価を20点の100点満点とする。提出物の期限は別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)	事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むことを推奨する。 事後学習: 取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。				
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版)						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	PD個人トレーの製作① 〔外形線設計～前処理〕	実習	部分床義歯用の個人トレーの製作方法、注意点について理解する。 部分床義歯用の個人トレーの外形線設計～前処理の注意点について理解する。
2	PD個人トレーの製作② 〔トレーレジン 圧接〕	実習	部分床義歯用の個人トレーの製作方法、注意点について理解する。 トレーレジンの取り扱い方法、注意点について理解する。
3	PD個人トレーの製作③ 〔柄の取り付け～修正〕	実習	部分床義歯用の個人トレーの製作方法、注意点について理解する。 部分床義歯用の個人トレーの柄の取り付け～修正方法の注意点について理解する。
4	PD個人トレーの製作④ 〔コンパウンド付与 完成〕	実習	部分床義歯用の個人トレーの製作方法、注意点について理解する。 コンパウンドの取り扱い方法、注意点について理解する。
5	PD咬合床の製作① 〔外形線設計～前処理〕	実習	部分床義歯用の咬合床の製作方法、注意点について理解する。 部分床義歯用の咬合床の外形線設計～前処理の注意点について理解する。
6	PD咬合床の製作② 〔基礎床圧接～〕	実習	部分床義歯用の咬合床の製作方法、注意点について理解する。 部分床義歯用の咬合床の基礎床圧接の注意点について理解する。
7	PD咬合床の製作③ 〔基礎床の製作〕	実習	部分床義歯用の咬合床の製作方法、注意点について理解する。 部分床義歯用の咬合床の基礎床製作の注意点について理解する。
8	PD咬合床の製作④ 〔咬合堤の製作〕	実習	部分床義歯用の咬合床の製作方法、注意点について理解する。 部分床義歯用の咬合床の咬合堤製作の注意点について理解する。
9	PD咬合床の製作⑤ 〔咬合床 完成〕	実習	部分床義歯用の咬合床の製作方法、注意点について理解する。
10	実力確認① 〔個人トレー&咬合床の製作〕	実習	部分床義歯用の個人トレーの製作方法、注意点について理解する。 部分床義歯用の咬合床の製作方法、注意点について理解する。
11	実力確認② 〔個人トレー&咬合床の製作〕	実習	部分床義歯用の個人トレーの製作方法、注意点について理解する。 部分床義歯用の咬合床の製作方法、注意点について理解する。
12	実力確認③ 〔個人トレー&咬合床の製作〕	実習	部分床義歯用の個人トレーの製作方法、注意点について理解する。 部分床義歯用の咬合床の製作方法、注意点について理解する。
13	実力確認④ 〔個人トレー&咬合床の製作〕	実習	部分床義歯用の個人トレーの製作方法、注意点について理解する。 部分床義歯用の咬合床の製作方法、注意点について理解する。
14	実力確認⑤ 〔個人トレー&咬合床の製作〕	実習	部分床義歯用の個人トレーの製作方法、注意点について理解する。 部分床義歯用の咬合床の製作方法、注意点について理解する。
15	実力確認⑥ 〔振り返り&レポート作成〕	実習	部分床義歯用の個人トレーの製作を振り返り、今後の課題について理解する。 部分床義歯用の咬合床の製作を振り返り、今後の課題について理解する。

科目名 (英)	全部床義歯基礎実習 I Basic Training of Complete Denture Techniques I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1	(コマ数)		曜日/時間	火・木/5・6限 金/5限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が全部床義歯製作に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	全部床義歯(総入れ歯)を製作するための基本的な知識と技術を習得する。						
科目概要	全部床義歯(総入れ歯)の人工歯排列方法の理解を深め、下顎法で排列する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 全部床義歯の製作方法、製作上の注意点を理解できる。 全部床義歯の前歯部人工歯排列方法(下顎法)、製作上の注意点を理解できる。 全部床義歯の臼歯部人工歯排列方法(下顎法)、製作上の注意点を理解できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を100点満点で評価する。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むこと。 事後学習: 取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	ベラシアSA排列マニュアル(SHOFU INC.) 最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第6版 コンプリートデンチャーテクニック(医歯薬出版)						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	咬合器装着[402U(トレーニング模型)] スプリットキャスト形成[402U]	実習	咬合平面板を用いた咬合器装着方法、注意点について理解する。 スプリットキャストの形成方法、注意点について理解する。
2	咬合器装着[402L(トレーニング模型)] スプリットキャスト形成[402U]	実習	咬合平面板を用いた咬合器装着方法、注意点について理解する。 スプリットキャストの形成方法、注意点について理解する。
3	咬合採得[蟻堤調整] 上顎模型咬合器装着[402U]	実習	咬合採得法の意味、調整法について理解する。 咬合平面板を用いた咬合器装着方法、注意点について理解する。
4	下顎模型咬合器装着[402L] 排列トレーニング[上顎前歯部]	実習	咬合平面板を用いた咬合器装着方法、注意点について理解する。 下顎法の上顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
5	排列トレーニング[上顎前歯部]	実習	下顎法の上顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
6	上顎前歯部排列	実習	下顎法の上顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
7	排列トレーニング[下顎前歯部]	実習	下顎法の下顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
8	下顎前歯部排列	実習	下顎法の下顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
9	上下顎前歯部排列 完成	実習	下顎法の上下顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
10	排列トレーニング [下顎右側臼歯部]	実習	下顎法の下顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
11	下顎右側臼歯部排列	実習	下顎法の下顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
12	下顎左側臼歯部排列	実習	下顎法の下顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
13	上顎右側臼歯部排列	実習	下顎法の上顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
14	上顎左側臼歯部排列	実習	下顎法の上顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
15	人工歯排列 完成	実習	下顎法の人工歯排列基準、排列方法、注意点について理解する。

科目名	全部床義歯基礎実習Ⅱ Basic Training of Complete Denture TechniquesⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
(英)		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1	(コマ数)		曜日/時間	火・木/5・6限 金/5限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が全部床義歯製作に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	全部床義歯(総入れ歯)を製作するための知識と技術を習得する。						
科目概要	全部床義歯(総入れ歯)の歯肉形成～流蠟までの方法、注意点の理解を深め排列する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全部床義歯の歯肉形成の方法、注意点を理解できる。 ・全部床義歯のフラスコ埋没の方法、注意点を理解できる。 ・全部床義歯の流蠟の方法、注意点を理解できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を100点満点で評価する。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)			事前事後学習とその内容	事前学習: シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むこと。 事後学習: 取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	ベラシアSA排列マニュアル(SHOFU INC.) 最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第6版 コンプリートデンチャーテクニック(医歯薬出版)						
特記事項	実習作品、レポートは最終授業の15日後、18時まで提出すること。欠席、失敗等で進行が遅れる場合は担当者の指示をおおぐこと。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯肉形成[下顎右側臼歯部] * デモと一緒に	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 臼歯部頬側の歯肉形態について理解する。
2	歯肉形成[下顎左側臼歯部] * Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 臼歯部頬側の歯肉形態について理解する。
3	歯肉形成[上顎臼歯部] * Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 臼歯部頬側の歯肉形態について理解する。
4	歯肉形成[上顎前歯部唇側] * デモと一緒に	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 前歯部唇側の歯肉形態について理解する。
5	歯肉形成[下顎前歯部唇側] * Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 前歯部唇側の歯肉形態について理解する。
6	歯肉形成[上顎前歯部舌側] * デモと一緒に	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 S字状隆起、前歯部舌側の歯肉形態について理解する。
7	歯肉形成[下顎前歯部舌側] * Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 前歯部舌側の歯肉形態について理解する。
8	歯肉形成[上下顎臼歯部舌側] * Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 臼歯部舌側の歯肉形態について理解する。
9	口蓋ヒダトレーニング	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 口蓋ヒダの形態について理解する。
10	歯肉形成 完成	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。
11	埋没準備～一次埋没	実習	フラスコ埋没の方法、注意点について理解する。 埋没準備～一次埋没までの方法、注意点について理解する。
12	レジン溜り～二次埋没	実習	フラスコ埋没の方法、注意点について理解する。 レジン溜り～二次埋没までの方法、注意点について理解する。
13	二次埋没 完了	実習	フラスコ埋没の方法、注意点について理解する。 二次埋没の方法、注意点について理解する。
14	埋没 完了	実習	フラスコ埋没の方法、注意点について理解する。
15	流 蠟	実習	フラスコ埋没の流蠟の方法、注意点について理解する。

科目名 (英)	全部床義歯基礎実習Ⅲ Basic Training of Complete Denture TechniquesⅢ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	火・木/5・6限 金/5限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が全部床義歯製作に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	全部床義歯(総入れ歯)を製作するための理論と技術を習得する。						
科目概要	全部床義歯(総入れ歯)の流蠟～研磨・完成までの方法注意点の理解を深め排列する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全部床義歯のレジン填入の方法、注意点を理解できる。 ・全部床義歯の重合～掘り出しの方法、注意点を理解できる。 ・全部床義歯の削合、研磨の方法、注意点を理解できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験を40点、作品提出40点、レポートの評価を20点の100点満点とする。提出物の期限は別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)			事前事後学習とその内容	事前学習: シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むこと。 事後学習: 取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習することを推奨する。		
参考図書	ベラシアSA排列マニュアル(SHOFU INC.) 最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第6版 コンプリートデンチャーテクニック(医歯薬出版)						
特記事項	実習作品、レポートは最終授業の15日後、18時まで提出すること。 欠席、失敗等で進行が遅れる場合は担当者の指示をあおぐこと。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	流蠟 完了	実習	フラスコ埋没の流蠟の方法、注意点について理解する。
2	レジン填入～重合	実習	加熱重合レジンの取り扱い方法、注意点について理解する。 レジン填入～重合までの方法、注意点について理解する。
3	レジン填入～重合	実習	加熱重合レジンの取り扱い方法、注意点について理解する。 レジン填入～重合までの方法、注意点について理解する。
4	掘り出し～咬合器再装着	実習	掘り出しの方法、注意点について理解する。 咬合器再装着の方法、注意点について理解する。
5	削合 〔選択削合～自動削合〕	実習	選択削合の方法、注意点について理解する。 自動削合の方法、注意点について理解する。
6	自動削合～人工歯形態修正	実習	自動削合の方法、注意点について理解する。 人工歯形態修正の方法、注意点について理解する。
7	粗研磨 〔義歯床床縁の調整〕	実習	粗研磨の方法、注意点について理解する。 義歯床床縁の調整方法、注意点について理解する。
8	中研磨	実習	中研磨の方法、注意点について理解する。
9	仕上げ研磨 〔レーズ研磨〕	実習	仕上げ研磨の方法、注意点について理解する。 レーズの取り扱い方法、注意点について理解する。
10	研磨 完成	実習	研磨の方法、注意点について理解する。 全部床義歯の研磨面の形態について理解する。
11	実技トレーニング 準備	実習	全部床義歯の蠟堤の調整方法、注意点について理解する。
12	実技トレーニング FD排列①	実習	下顎法の全部床義歯人工歯排列方法、注意点について理解する。
13	実技トレーニング FD排列①振り返り	実習	全部床義歯人工歯排列基準について理解する。
14	実技トレーニング FD排列②	実習	下顎法の全部床義歯人工歯排列方法、注意点について理解する。
15	実技トレーニング FD排列②振り返り	実習	全部床義歯人工歯排列基準について理解する。

科目名 (英)	歯冠修復技工学応用 I Restorative Dentistry-Advanced I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科 II 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	火/5限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が歯冠修復技工に必要な基本的な知識・技術について授業を行う。						
目的	歯科診療所の臨床ステップ、歯科技工所の臨床ステップ、間接法による補綴装置の製法についての知識を習得する。						
科目概要	製作過程、印象採得、支台築造、暫間修復物、硬質レジン前装冠についての理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・補綴物の製作順序、製作上の注意点を理解する。 ・支台築造法、メタルコアやファイバーコアの製作上の注意点を理解する。 ・レジン前装冠の特徴、製作上の注意点を理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 配布資料「国試に強くなる本」(オリジナル)	事 前 事 後 学 習 と そ の 内 容	事前学習: シラバスおよび教科内容の確認(最低限)、わかる範囲で配布資料の穴埋め(15分以上)				
参考図書	歯科技工士国家試験問題集(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)		事後学習: 授業の最初に実施する前回の内容の小テスト(穴埋め10問程度)に合格(60%以上)できるよう、復習しておく。(30分以上)				
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	製作過程(臨床ステップの概要)	講義	・補綴物の製作順序、歯科診療所の臨床ステップ、歯科技工所の臨床ステップについて理解する。
2	印象採得	講義	・印象採得、印象材の種類と特徴、印象材の取り扱い方法について理解する。
3	研究用模型、印象用トレー	講義	・研究用模型の目的、トレーの目的、トレーの種類、個人トレー、個歯トレーの製法について理解する。
4	継続歯、支台築造-1	講義	・継続歯(ホストクラウン)の特徴、根面形態、支台築造法について理解する。
5	支台築造-2	講義	・いろいろな支台形態、補助的保持形態、分割コアについて理解する。
6	暫間修復物、レジン前装冠-1	講義	・暫間修復物の意義と目的、種類と使用材料、製法について理解する。 ・レジン前装冠の特徴、レジン前装と陶材前装の比較、維持装置について理解する。
7	レジン前装冠-2	講義	・レジン前装冠の窓開けの注意点、フレームのデザイン、硬質レジンについて理解する。
8	復習	講義	・1回～7回までに学習した内容を、教科書、配布プリント、小テストを活用して復習する。

科目名 (英)	歯冠修復技工学応用Ⅱ Restorative Dentistry-AdvancedⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8 (コマ数)	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	火/5限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が歯冠修復技工に必要な基本的な知識・技術について授業を行う。						
目的	歯を喪失した場合の補綴装置であるブリッジやインプラントについての知識を習得する。						
科目概要	ブリッジの概要と種類、ポンティック、連結法、インプラントについての理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ブリッジの概要と種類、製作順序、製作上の注意点を理解する。 ・ポンティックの要件と構造、種類と形態、製作上の注意点を理解する。 ・インプラントの概要、インプラント治療の流れ、インプラントの種類を理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 配布資料「国試に強くなる本」(オリジナル)	事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスおよび教科内容の確認(最低限)、わかる範囲で配布資料の穴埋め(15分以上)				
参考図書	歯科技工士国家試験問題集(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)		事後学習: 授業の最初に実施する前回分の内容の小テスト(穴埋め10問程度)に合格(60%以上)できるよう、復習しておく。(30分以上)				
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ブリッジの概要と種類-1	講義	・ブリッジの特徴、構成について理解する。
2	ブリッジの概要と種類-2	講義	・「ブリッジの概要と種類-1」の小テストを行う。 ・固定性ブリッジ、半固定性ブリッジ、可撤性ブリッジの特徴について理解する。
3	ポンティック-1	講義	・「ブリッジの概要と種類-2」の小テストを理解する。 ・基底面形態によるポンティックの分類について理解する。
4	ポンティック-2	講義	・「ポンティック-1」の小テストを理解する。 ・自浄作用によるポンティックの分類、ポンティックの咬合面形態や負担軽減対策について理解する。
5	連結-1	講義	・「ポンティック-2」の小テストを行う。 ・連結部の要件、連結方法の種類、ワンピースキャスト法、鑲付け法について理解する。
6	連結-2	講義	・「連結-1」の小テストを行う。 ・支台装置とポンティックの固定方法、鑲付け法と比較した一塊鑄造法の利点・欠点について理解する。
7	インプラント	講義	・「連結-2」の小テストを行う。 ・インプラントの概要、インプラント治療の流れ、インプラントの種類などについて理解する。
8	復習	講義	・1回～7回までに学習した内容を、教科書、配布プリント、小テストを活用して復習する。

科目名 (英)	スポーツ歯学概論 Compendium of Sports Dentistry	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	水/5. 6限
講師紹介	JASD認定テクニカルインストラクターであり、日本スポーツ歯科医学会において学術発表もしている実務経験豊富な教員が臨床的な内容を踏まえて授業を行う。						
目的	「スポーツ」と「歯科」の新しい関係を学び、基本的なカスタムメイドマウスガードの製作方法を習得する。						
科目概要	・スポーツと歯科の関係を理解し、安全にスポーツを楽しむためのスポーツマウスガードの役割を知り、基本的な製作を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツマウスガードの役割を説明できる。 ・いびき防止装置の役割を説明できる。 ・スポーツマウスガードの製作手順、製作上の注意点を説明できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、レポートで行う。講義毎に課す4回のレポートを各100点満点で採点し、その平均点で評価する。各レポートの提出日は追って指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	事前学習：日本スポーツ歯科医学会ホームページの確認を推奨する。 事後学習：マウスガード使用状況、マウスガード義務化競技、使用ルール等の確認を行うことを推奨する。		
参考図書	授業内にて紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	スポーツ歯科技工	講義	担当：瀧島 愛之(Y's DentalTechno) マウスガードの種類。各スポーツでのマウスガードのルールについて理解する。				
2	スポーツ歯学概論-①	講義	担当：関根 陽平(みはる矯正・歯科医院院長) スポーツ選手と歯科の関係(歯科治療におけるスポーツの戦略)、スポーツ基本法を理解する。				
3	スポーツ歯学概論-②	講義	担当：関根 陽平(みはる矯正・歯科医院院長) 実際のマウスガード(患者に合わせたマウスガード)の細かいバリエーションについて理解する。				
4	口腔内印象採得～模型製作	講義	マウスガード製作のための印象採得から模型製作について理解する。				
5	マウスガードの製作-①	講義	担当：見崎 努(株式会社リンカイ) スポーツマウスガードとは何か。スポーツマウスガードの役割。製作の概略を理解する。				
6	いびき防止装置	講義	担当：外部講師調整中(株式会社スマートプラクティスジャパン) いびきを防止するためのスリープスプリントについて理解する。				
7	マウスガードの製作-②	講義	自分の口腔模型を用い、実際のスポーツマウスガードの製作手順を理解する。				
8	振り返り	講義	スポーツ歯学概論の授業を振り返り、学んだことや感想を書き出し、発表する。				

科目名 (英)	歯冠修復応用実習 I Advanced Training of Restorative Dentistry I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	水・木/5・6限、 金/5限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が歯冠修復技工製作に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	臨床複模型を用いて、様々な作業用模型の製作法、メタルコアやインレーの製作法を習得する。						
科目概要	メタルコアやインレーのワックスアップのスキルアップ、臨床的技術力を向上させる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯型可撤式模型の製作法、製作上の注意点を理解し、製作できる。 ・前歯部支台形態、臼歯部支台形態、メタルコアの製作上の注意点を理解し、製作できる。 ・インレーのワックスアップの手順、製作上の注意点を理解し、製作できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品提出」80点、その他、レポートの評価を20点の100点満点とする。提出物の期限は別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	事前学習： 教科書および実習プリントを読み、手順を確認しておくこと良 い。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	石膏注入 〔In. コア 臨床複模型〕	実習	石膏の正しい取扱い方、注意点について理解する。 石膏注入操作の注意点について理解し操作する。
2	模型製作 〔In. コア 臨床複模型〕	実習	歯型可撤式模型の製作法、注意点について理解する。 模型基底面の削除量、ダウエルピン植立位置、植立方法について理解し製作する。
3	模型製作 〔In. コア 臨床複模型〕	実習	歯型可撤式模型の製作法、注意点について理解する。 回転防止溝の形成位置、方法について理解し製作する。
4	模型製作 〔In. コア 臨床複模型〕	実習	歯型可撤式模型の製作法、注意点について理解する。 石膏分離材塗布～分割・トリミングの注意点について理解し製作する。
5	Wax up 〔メタルコア〕	実習	メタルコアWax upの方法、注意点について理解する。 前歯部支台形態、臼歯部支台形態について理解し製作する。
6	Wax up 〔メタルコア〕	実習	メタルコアWax upの方法、注意点について理解する。 メタルコアの軸面形成の注意点について理解し製作する。
7	Wax up 〔メタルコア〕 Wax up 〔In. 〕	実習	メタルコアWax upの方法、注意点について理解する。 インレーWax upの方法、注意点について理解し製作する。
8	スプルー植立 〔メタルコア〕 Wax up 〔In. 〕	実習	スプルー植立の位置、植立方法の注意点について理解する。 インレーWax upの方法、注意点について理解し製作する。
9	円錐台植立～埋没 〔メタルコア〕 Wax up 〔In. 〕	実習	円錐台植立～埋没までの方法、注意点について理解する。 インレーWax upの方法、注意点について理解し製作する。
10	鑄造 〔メタルコア〕 Wax up 〔In. 〕	実習	鑄造リングの乾燥、加熱～鑄造までの方法、注意点について理解する。 インレーWax upの方法、注意点について理解し製作する。
11	石膏注入 〔下顎Cr.、下顎Br. 〕	実習	石膏の正しい取扱い方法、注意点について理解する。 石膏注入操作の注意点について理解し操作する。
12	基底面削除～ダウエルピン植立 〔下顎Cr. 模型〕	実習	歯型可撤式模型の製作法、注意点について理解する。 模型基底面の削除量、ダウエルピン植立位置、植立方法について理解し製作する。
13	回転防止溝付与～二次石膏注入 〔下顎Cr. 模型〕	実習	歯型可撤式模型の製作法、注意点について理解する。 回転防止溝の形成～二次石膏注入までの方法、注意点について理解し製作する。
14	模型仕上げ～分割 〔下顎Cr. 模型〕	実習	歯型可撤式模型の製作法、注意点について理解する。 模型仕上げ～分割までの注意点について理解し製作する。
15	歯型トリミング～咬合器装着 〔下顎Cr. 模型〕	実習	歯型可撤式模型の製作法、注意点について理解する。 歯型トリミング、咬合器装着の方法、注意点について理解し製作する。

科目名 (英)	歯冠修復応用実習Ⅱ Advanced Training of Restorative Dentistry II	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	水・木/5・6限、 金/5限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が歯冠修復技工製作に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	全部金属冠の製作法を習得する。						
科目概要	実力確認試験(模型の製作)を通して、ダウエルピン法による作業用模型製作のスキルアップ、実践力の向上をさせる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ダウエルピン法による歯型可撤式模型の製作方法、製作上の注意点を理解し、製作できる。 ・全部金属冠の製作方法、注意点を理解し、製作できる。 ・下顎右側第二小臼歯、下顎右側第二大臼歯の形態的特徴を理解し、製作できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験を40点、作品提出40点、レポートの評価を20点の100点満点とする。提出物の期限は別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	事前学習： 教科書および実習プリントを読み、手順を確認しておくこと良 い。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実力確認① 〔模型製作(下顎Br.)〕	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 模型基底面の削除量、ダウエルピン植立位置、植立方法、注意点について理解し製作する。
2	実力確認② 〔模型製作(下顎Br.)〕	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 回転防止溝の形成位置、方法、注意点について理解し製作する。
3	実力確認③ 〔模型製作(下顎Br.)〕	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 石膏分離材塗布～二次石膏注入の方法、注意点について理解し製作する。
4	実力確認④ 〔模型製作(下顎Br.)〕	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 作業用模型の仕上げ～分割・トリミングの方法、注意点について理解し製作する。
5	研磨・完成〔メタルコア〕 Wax up〔In.〕	実習	メタルコアの研磨方法、注意点について理解する。 インレーワックスアップの方法、注意点について理解し製作する。
6	実力確認⑤ 〔模型製作(下顎Br.)〕	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 咬合器装着の方法、注意点について理解し製作する。
7	45 Cr. Wax up〔主溝と外形〕	実習	下顎右側第二小臼歯の特徴について理解する。 45全部金属冠のワックスアップ(主溝と外形)の方法、注意点について理解し製作する。
8	47 Cr. Wax up〔主溝と外形〕	実習	下顎右側第二大臼歯の特徴について理解する。 47全部金属冠のワックスアップ(主溝と外形)の方法、注意点について理解し製作する。
9	45 Cr. Wax up〔副溝～完成〕	実習	下顎右側第二小臼歯の特徴について理解する。 45全部金属冠のワックスアップ(副溝)の方法、注意点について理解し製作する。
10	47 Cr. Wax up〔副溝～完成〕	実習	下顎右側第二大臼歯の特徴について理解する。 47全部金属冠のワックスアップ(副溝)の方法、注意点について理解し製作する。
11	45、47 Cr. Wax up〔完成〕	実習	全部金属冠のワックスアップ(盛り上げ法)の方法、注意点について理解し製作する。
12	45、47 Cr.〔マージンチェック〕	実習	マージンチェックの方法、注意点について理解し操作する。
13	45、47 Cr. 〔スプルー植立～埋没〕	実習	全部金属冠のスプルー植立～埋没までの方法、注意点について理解し製作する。
14	鋳造操作 確認(下顎Cr.)	実習	鋳造に必要な器具・器材、取り扱い方法について理解する。 鋳造操作の方法、注意点について理解し製作する。
15	鋳造操作 確認(下顎Cr.)	実習	鋳造に必要な器具・器材、取り扱い方法について理解する。 鋳造操作の方法、注意点について理解し製作する。

科目名 (英)	歯冠修復応用実習Ⅲ Advanced Training of Restorative DentistryⅢ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1	(コマ数)		曜日/時間	水・木/5・6限、 金/5限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が歯冠修復技工製作に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	ブリッジの製作法を習得する。						
科目概要	実力確認試験(ワックスアップ)を通して、多数歯のワックスアップの考え方やポンティックの基底部形態についての理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ブリッジの製作方法、製作上の注意点を理解し、製作できる。 ・ポンティックの基底部形態を理解し、製作できる。 ・多数歯のワックスアップの考え方、製作上の注意点を理解し、製作できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験を40点、作品提出40点、レポートの評価を20点の100点満点とする。提出物の期限は別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)	事前事後 学習と その内容		事前学習： 教科書および実習プリントを読み、手順を確認しておくとい。			
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	なし						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	45、47 Cr. 〔適合チェック～接触点調整〕	実習	全部金属冠の適合チェックの方法、注意点について理解し製作する。
2	45、47 Cr. 〔接触点調整～〕	実習	全部金属冠の隣接面接触点の調整方法、注意点について理解し製作する。
3	45、47 Cr. 〔粗研磨〕	実習	金属研磨(粗研磨)の方法、注意点について理解し製作する。
4	45、47 Cr. 〔粗研磨〕	実習	金属研磨(粗研磨)の方法、注意点について理解し製作する。
5	45、47 Cr. 〔仕上げ研磨〕	実習	金属研磨(仕上げ研磨)の方法、注意点について理解し製作する。
6	実力確認① 〔Wax up (下顎Br.)〕	実習	45 全部金属冠のワックスアップ(主溝と外形)の方法、注意点について理解し製作する。 下顎右側第二小臼歯の特徴について理解する。
7	実力確認② 〔Wax up (下顎Br.)〕	実習	47 全部金属冠のワックスアップ(主溝と外形)の方法、注意点について理解し製作する。 下顎右側第二大臼歯の特徴について理解する。
8	実力確認③ 〔Wax up (下顎Br.)〕	実習	ポンティック部のワックスアップ(主溝と外形)の方法、注意点について理解し製作する。 下顎右側第一大臼歯の特徴について理解する。
9	実力確認④ 〔Wax up (下顎Br.)〕	実習	④⑤⑥⑦Br. ワックスアップ(主溝と外形)の方法、注意点について理解し製作する。
10	45、47 Cr. 〔研磨 完成〕	実習	全部金属冠の研磨の方法、注意点について理解する。 金属研磨に使用する器具・器材、取り扱い方法、注意点について理解し操作する。
11	④⑤⑥⑦Br. Wax up 〔修正〕	実習	④⑤⑥⑦Br. ワックスアップ(主溝と外形)の修正箇所について理解し製作する。
12	④⑤⑥⑦Br. Wax up 〔修正〕	実習	④⑤⑥⑦Br. ワックスアップ(副溝)の方法、注意点について理解し製作する。
13	④⑤⑥⑦Br. Wax up 〔ポンティック調整〕	実習	リッジラップ型ポンティックの形態について理解する。 鞍状型ポンティックからリッジラップ型ポンティックへの修正方法について理解し製作する。
14	④⑤⑥⑦Br. Wax up 〔ポンティック 窓開け〕	実習	リッジラップ型ポンティックの形態について理解する。 ポンティックの窓開け方法、注意点について理解し製作する。
15	④⑤⑥⑦Br. Wax up 〔修正 完了〕	実習	④⑤⑥⑦Br. ワックスアップの方法、注意点について理解し完成させる。

科目名 (英)	歯冠修復応用実習Ⅳ Advanced Training of Restorative DentistryⅣ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～金/5、6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が歯冠修復技工製作に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	ブリッジの製作法を習得する。						
科目概要	ブリッジ連結部の考え方や鑑付け法に関する理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ブリッジの製作方法、製作上の注意点を理解し、製作できる。 ・ブリッジ連結部の形態、製作上の注意点を理解し、製作できる。 ・鑑付けの方法、製作上の注意点を理解し、製作できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として作品提出80点、レポートの評価を20点の100点満点とする。提出物の期限は別途指示する。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	事前学習： 教科書および実習プリントを読み、手順を確認しておく和良好的。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	なし						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	④546④7 Br. 〔マージンチェック〕	実習	マージンチェックの方法、注意点について理解する。
2	④546④7 Br. 〔スプルー植立〕	実習	スプルー植立の方法、注意点について理解する。 プラスチックスプルーの使用法、注意点について理解し操作する。
3	④546④7 Br. 〔スプルー植立～埋没〕	実習	スプルー植立の方法、注意点について理解する。 チルメタル(冷し金)の目的、使用法、注意点について理解し製作する。
4	④546④7 Br. 〔スプルー植立～埋没〕	実習	スプルー植立～埋没までの方法、注意点について理解し製作する。
5	④546④7 Br. 〔埋没 完了〕	実習	埋没の方法、注意点について理解し操作する。
6	④546④7 Br. 〔鑄造〕	実習	鑄造の方法、注意点について理解し操作する。
7	④546④7 Br. 〔鑄造～粗研磨〕	実習	金属研磨の方法(粗研磨)、注意点について理解し製作する。
8	④546④7 Br. 〔鑑付け用 埋没〕	実習	鑑付け用埋没の方法、注意点について理解する。 石英埋没材の特徴、取り扱い方法について理解する。
9	④546④7 Br. 〔流蠟～鑑付け〕	実習	流蠟の方法、注意点について理解する。 鑑付けの方法、注意点を理解し操作する。
10	④546④7 Br.〔適合チェック～研磨〕 模型調整〔MB特別実習〕	実習	ブリッジの適合チェックの方法、注意点について理解する。
11	④546④7 Br.〔研 磨〕 模型調整〔MB特別実習〕	実習	ブリッジの研磨方法、注意点について理解する。
12	④546④7 Br.〔メタル調整〕 模型調整〔MB特別実習〕	実習	レジン前装ポンティックのメタル調整の方法、注意点について理解する。
13	④546④7 Br. 〔レジンワーク〕	実習	硬質レジンの特徴、取り扱い方法、注意点について理解する。
14	④546④7 Br. 〔形態修正〕	実習	硬質レジンの形態修正の方法、注意点について理解し製作する。
15	④546④7 Br.〔研磨 完成〕	実習	硬質レジンの研磨方法、注意点について理解する。 硬質レジンの研磨に必要な器具・器材について理解し完成させる。

科目名 (英)	矯正歯科技工学総論 Principles of Orthodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	水/6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が矯正歯科技工製作に必要な基本的な知識について授業を行う。						
目的	矯正治療の概要および正常咬合と不正咬合について、矯正歯科技工を行う上で必要な理論や基本的な手技を習得する。						
科目概要	正常咬合、不正咬合、矯正歯科治療の流れ、矯正歯科技工の手技について理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・正常咬合、不正咬合を理解する。 ・矯正治療の流れを理解する。 ・矯正技工の手技を理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「矯正歯科技工学」(医歯薬出版) 配布資料「矯正の達人」(オリジナル)	事前事後 学習と その内容	事前学習:シラバスおよび教科内容の確認(最低限)、 わかる範囲で配布資料の空欄補充をする。 事後学習:授業の最初に実施する前回分の内容の小テスト (空欄補充問題10問程度)に合格(60%以上) できるよう復習をしておく。				
参考図書	矯正歯科技工・小児歯科技工 歯科技工学実習トレーニング(医歯薬出版)						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	特別講義① 正常咬合と不正咬合	講義	担当:小倉 董哉(昭和大学歯科病院 歯科矯正学講座) 矯正治療の意義と目的、正常咬合と不正咬合について理解する。
2	Step1 矯正歯科治療とは Step2 矯正歯科技工の意義と目的 Step3-1 正常咬合	講義	Step1の練習問題を解き、「矯正歯科治療とは」を復習する。 Step2の練習問題を解き、「矯正歯科技工の意義と目的」を復習する。 Step3-1の練習問題を解き、「正常咬合」を復習する。
3	Step3-2 不正咬合(咬合異常)	講義	Step3-2の練習問題を解き、「不正咬合(咬合異常)」を復習する。
4	特別講義② 矯正治療の進め方	講義	担当:小倉 董哉(昭和大学歯科病院 歯科矯正学講座) 矯正治療の進め方(診査・検査・動的治療・静的治療)について理解する。
5	Step4 矯正歯科治療の進め方	講義	Step4の練習問題を解き、「矯正歯科治療の進め方」を復習する。
6	Step5 矯正歯科技工用器具と器械、材料 Step6 矯正歯科技工の手技	講義	Step5の練習問題を解き、「矯正歯科技工用器具と器械、材料」を復習する。 Step6の練習問題を解き、「矯正歯科技工の手技」を復習する。
7	総論まとめ	講義	Step1「矯正歯科治療とは」、Step2「矯正歯科技工の意義と目的」、Step3「正常咬合と不正(咬合異常)」、Step4「矯正歯科治療の進め方」、Step5「矯正歯科技工用器具と器械、材料」、Step6「矯正歯科技工の手技」について復習する。
8	復習	講義	1回～7回までに学習した内容を、教科書、配布プリント、練習問題などを活用して復習する。

科目名 (英)	矯正歯科技工学各論 Particular Theories of Orthodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	水/6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が矯正歯科技工製作に必要な基本的な知識について授業を行う。						
目的	各種矯正装置を製作するために、役割や製作順序、歯や顎をどのように移動させるかについての知識、技術を習得する。						
科目概要	各種矯正装置の名称や適応、製作手順についての知識、技術を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・矯正装置の必要条件、分類を理解する。 ・動的矯正装置の名称、適応、製作手順を理解する。 ・静的矯正装置の名称、適応、製作手順を理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「矯正歯科技工学」(医歯薬出版) 配布資料「矯正の達人」(オリジナル)	事前事後 学習と その内容	事前学習:シラバスおよび教科内容の確認(最低限)、 わかる範囲で配布資料の空欄補充しておくが良い。 事後学習:授業の最初に実施する前回分の内容の小テスト (空欄補充問題10問程度)に合格(60%以上) できるよう復習をしておく。				
参考図書	矯正歯科技工・小児歯科技工 歯科技工学実習トレーニング(医歯薬出版)						
特記事項	国家試験科目(学説試験)						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	特別講義① 矯正装置－1	講義	担当:宮澤 平(昭和大学歯科病院 歯科矯正学講座) 各動的矯正装置についてその形態、適応、製作上の注意点等について理解する。
2	Step7 矯正用口腔模型の製作 Step8 矯正装置の必要条件と分類	講義	Step7「矯正用口腔模型の製作」を復習する。 Step8「矯正装置の必要条件と分類」を復習する。
3	Step9-1 矯正装置の製作法 1. 舌側弧線装置～6. 咬合斜面板	講義	Step9-1「矯正装置の製作法 1. 舌側弧線装置」 ～「矯正装置の製作法 6. 咬合斜面板」を復習する。
4	特別講義② 矯正装置－2	講義	担当:宮澤 平(昭和大学歯科病院 歯科矯正学講座) 各静的矯正装置についてその形態、適応、製作上の注意点等について理解する。
5	Step9-2 矯正装置の製作法 7. 可撤式拡大装置～15. スライディング プレート Step10 保定装置(静的矯正装置)	講義	Step9-2「矯正装置の製作法 7. 可撤式拡大装置」 ～「矯正装置の製作法 15. スライディングプレート」を復習する。 Step10「保定装置(静的矯正装置)」を復習する。
6	まとめ－1 Step7・8の復習	講義	Step7・8の練習問題を行い、Step7 矯正用口腔模型の製作、Step8 矯正装置の 必要条件と分類について復習する。
7	まとめ－2 Step9・10の復習	講義	Step9・10の練習問題を行い、Step9 矯正装置の製作法、Step10 保定装置につ いて復習する。
8	復 習	講義	1回～7回までに学習した内容を、教科書、配布プリント、練習問題などを活用して 復習する。

科目名 (英)	矯正歯科技工実習 Practical Training of Orthodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	火～金/5、6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が矯正歯科技工製作に必要な基本的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	矯正装置の製作を通して、矯正歯科技工の手技や製作法、矯正治療の流れを習得する。						
科目概要	矯正用線の屈曲、舌側弧線装置や保定装置の製作を通して、矯正歯科技工の手技や矯正装置についての理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・矯正用線の屈曲方法、製作上の注意点を理解し、製作できる。 ・舌側弧線装置の製作方法、製作上の注意点を理解し、製作できる。 ・リテーナー(保定装置)の製作方法、製作上の注意点を理解し、製作できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「矯正歯科技工学」(医歯薬出版) 配布資料 実習プリント(オリジナル)	事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むこと。 事後学習: 取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習すること。				
参考図書	矯正歯科技工・小児歯科技工 歯科技工学実習トレーニング(医歯薬出版)						
特記事項	国家試験科目(実地試験)						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	舌側弧線装置〔復習〕	実習	舌側弧線装置の製作方法、製作上の注意点について理解する。
2	リテーナー〔復習〕	実習	リテーナーの製作方法、製作上の注意点について理解する。
3	STロック鑑付け 6┘ 〔舌側弧線装置〕	実習	STロックの鑑付け方法、注意点について理解する。 維持装置の構造について理解し製作する。
4	STロック鑑付け ┘6 〔舌側弧線装置〕	実習	STロックの鑑付け方法、注意点について理解する。 維持装置の構造について理解し製作する。
5	設計～脚部の屈曲 〔舌側弧線装置〕	実習	舌側弧線装置の設計について理解する。 脚部の屈曲方法、注意点について理解し製作する。
6	主線の屈曲 〔舌側弧線装置〕	実習	主線の屈曲方法、注意点について理解する。
7	主線と脚部の鑑付け 〔舌側弧線装置〕	実習	主線と脚部の鑑付け方法、注意点について理解する。
8	自在鑑付け 練習 〔舌側弧線装置〕	実習	自在鑑付けの方法、注意点について理解する。 補助弾線の種類と作用方向について理解し製作する。
9	補助弾線鑑付け～屈曲 〔舌側弧線装置〕	実習	自在鑑付けの方法、注意点について理解する。 補助弾線の屈曲方法、注意点について理解し製作する。
10	研磨 完成 〔舌側弧線装置〕	実習	研磨の方法、注意点について理解し製作する。。
11	ふりかけ前準備 〔リテーナー〕	実習	レジンふりかけの前準備の方法、注意点について理解し製作する。
12	ふりかけ 〔リテーナー〕	実習	ふりかけ法の手順、注意点について理解し製作する。
13	形態修正 〔リテーナー〕	実習	形態修正の手順、注意点について理解し製作する。
14	研磨 完成 〔リテーナー〕	実習	研磨の方法、注意点について理解し製作する。
15	振り返り 〔リテーナー&舌側弧線装置〕	実習	リテーナーの製作方法、製作上の注意点について振り返る。 舌側弧線装置の製作方法、製作上の注意点について振り返る。

科目名 (英)	歯科技工実習 I Training of Dental Technology I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科 II 部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)		曜日/時間	月～金/5、6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が歯科技工技術に必要な総合的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	硬質レジン前装冠に関する理論と技術について習得する。						
科目概要	硬質レジン前装冠の窓開けや光重合レジンの取扱い方、研磨方法についての理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・硬質レジン前装冠の製作方法、製作上の注意点を理解し、製作できる。 ・硬質レジン前装冠のフレームのデザイン、窓開けの注意点を理解し、製作できる。 ・光重合レジンの取り扱い方法、注意点を理解し、製作できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として作品提出80点、レポートの評価を20点の100点満点とする。提出物の期限は別途指示する。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) ルナウイング取扱説明書(山本貴金属地金株式会社) 配布資料 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むこと。 事後学習： 取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習すること。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	なし						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	14 Cr. Wax up 〔デモ&トライ(60分間)〕	実習	上顎右側第一小臼歯の特徴について理解する。 14全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解する。
2	14 Cr. Wax up 〔チェック&修正〕	実習	上顎右側第一小臼歯の特徴について理解する。 14全部金属冠のワックスアップの修正箇所、修正方法について理解する。
3	14 Cr. Wax up 〔完了〕	実習	上顎右側第一小臼歯の特徴について理解する。 14全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解する。
4	14 窓開け 〔デモと一緒に〕	実習	硬質レジン前装冠の窓開けのデザイン、窓開けの方法、注意点について理解する。
5	14 窓開け 〔修正〕	実習	硬質レジン前装冠の窓開けの修正箇所、修正方法について理解する。 硬質レジン前装冠の維持装置の役割、付与方法について理解する。
6	14 硬質レジン前装冠 〔スプルー植立～埋没〕	実習	硬質レジン前装冠のスプルー植立の方法、注意点について理解する。
7	14 硬質レジン前装冠 〔埋没 完了〕	実習	硬質レジン前装冠の埋没の方法、注意点について理解する。
8	14 硬質レジン前装冠 〔鑄造～研磨〕	実習	硬質レジン前装冠の鑄造方法、注意点について理解する。
9	14 硬質レジン前装冠 〔研磨～メタル調整〕	実習	硬質レジン前装冠のメタルフレームの研磨方法、注意点について理解する。 硬質レジン前装冠のメタル調整の目的、方法、注意点について理解する。
10	14 硬質レジン前装冠 〔オパークレジン 塗布・重合〕	実習	硬質レジン(光重合型)の材料の特徴、取り扱い方法、注意点について理解する。 オパークレジンの目的、塗布・重合の方法、注意点について理解する。
11	14 硬質レジン前装冠 〔デンティン・エナメル 築盛・重合〕	実習	硬質レジン(光重合型)の材料の特徴、取り扱い方法、注意点について理解する。 デンティン・エナメルの築盛・重合の方法、注意点について理解する。
12	14 硬質レジン前装冠 〔最終重合～形態修正〕	実習	硬質レジン(光重合型)の材料の特徴、取り扱い方法、注意点について理解する。 硬質レジン(光重合型)の最終重合の目的、方法、注意点について理解する。
13	14 硬質レジン前装冠 〔形態修正～研磨〕	実習	硬質レジン(光重合型)の形態修正の方法、注意点について理解する。 硬質レジン(光重合型)の研磨(粗研磨)の方法、注意点について理解する。
14	14 硬質レジン前装冠 〔研 磨〕	実習	硬質レジン(光重合型)の形態修正の方法、注意点について理解する。 硬質レジン(光重合型)の研磨(中研磨)の方法、注意点について理解する。
15	14 硬質レジン前装冠 〔研磨 完成〕	実習	硬質レジン(光重合型)の形態修正の方法、注意点について理解する。 硬質レジン(光重合型)の研磨(仕上げ)の方法、注意点について理解する。

科目名 (英)	歯科技工実習Ⅱ Training of Dental Technology II	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数 (コマ数)	15	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月～金/5、6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が歯科技工技術に必要な総合的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	実力確認試験(全部金属冠の製作)や全部金属冠のワックスアップ、歯型彫刻の反復トレーニングを行い技術を習得する。						
科目概要	全部金属冠の製作や全部金属冠のワックスアップ、歯型彫刻の反復トレーニングを通して、実践力や基礎技術力を向上させる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 全部金属冠の製作方法、製作上の注意点を理解し、実習をすすめることができる。 歯型彫刻の方法、注意点を理解し、実習をすすめることができる。 全部金属冠のワックスアップの方法、注意点を理解し、実習をすすめることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験を40点、作品提出40点、レポートの評価を20点の100点満点とする。提出物の期限は別途指示する。</p> <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	配布資料 歯型彫刻 実習プリント(オリジナル) 配布資料 歯冠修復技工学 実習プリント(オリジナル)	事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むこと。 事後学習： 取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習すること。				
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実力確認① 〔Cr. の製作(臨床複模型)〕	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 ダウエルピン植立～二次石膏注入までの方法、注意点について理解する。
2	実力確認② 〔Cr. の製作(臨床複模型)〕	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 分割・トリミング～咬合器装着までの方法、注意点について理解する。
3	実力確認③ 〔Cr. の製作(臨床複模型)〕	実習	全部金属冠の製作方法、注意点について理解する。 全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解する。
4	実力確認④ 〔Cr. の製作(臨床複模型)〕	実習	全部金属冠の製作方法、注意点について理解する。 全部金属冠のスプルー植立～埋没までの方法の注意点について理解する。
5	実力確認⑤ 〔Cr. の製作(臨床複模型)〕	実習	全部金属冠の製作方法、注意点について理解する。 全部金属冠の鑄造方法、注意点について理解する。。
6	実力確認⑥ 〔Cr. の製作(臨床複模型)〕	実習	全部金属冠の製作方法、注意点について理解する。 全部金属冠の研磨方法、注意点について理解する。。
7	実力確認 振り返り	実習	全部金属冠の製作方法、注意点について理解する。 全部金属冠の製作を振り返り、今後の課題について理解する。
8	実技トレーニング① 〔彫刻&Wax up〕	実習	全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解する。 歯型彫刻の方法、注意点について理解する。
9	実技トレーニング② 〔彫刻&Wax up〕	実習	全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解する。 歯型彫刻の方法、注意点について理解する。
10	実技トレーニング③ 〔彫刻&Wax up〕	実習	全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解する。 歯型彫刻の方法、注意点について理解する。
11	実技トレーニング④ 〔彫刻&Wax up〕	実習	全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解する。 歯型彫刻の方法、注意点について理解する。
12	実技トレーニング⑤ 〔彫刻&Wax up〕	実習	全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解する。 歯型彫刻の方法、注意点について理解する。
13	実技トレーニング⑥ 〔彫刻&Wax up〕	実習	全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解する。 歯型彫刻の方法、注意点について理解する。
14	実技トレーニング⑦ 〔彫刻&Wax up〕	実習	全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解する。 歯型彫刻の方法、注意点について理解する。
15	実技トレーニング⑧ 〔彫刻&Wax up〕	実習	全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解する。 歯型彫刻の方法、注意点について理解する。

科目名 (英)	歯科技工実習Ⅲ Training of Dental TechnologyⅢ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15 (コマ数)	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月～金/5、6限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が歯科技工技術に必要な総合的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	全部金属冠やインレーのワックスアップ、歯型彫刻の反復トレーニングを行行い技術を習得する。						
科目概要	全部金属冠やインレーのワックスアップ、歯型彫刻の反復トレーニングを通して、実践力や基礎技術力を向上させる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 全部金属冠の製作方法、製作上の注意点を理解し、実習をすすめることができる。 歯型彫刻の方法、注意点を理解し、実習をすすめることができる。 全部金属冠のワックスアップの方法、注意点を理解し、実習をすすめることができる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>評価は、実技試験として作品の評価を80点、レポートの評価を20点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	配布資料 歯型彫刻 実習プリント(オリジナル) 配布資料 歯冠修復技工学 実習プリント(オリジナル)			事前事後 学習と その内容	事前学習： シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むこと。 事後学習： 取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習すること。		
参考図書	最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第5版 クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版)						
特記事項	実習作品、レポートは最終授業の15日後、18時まで提出すること。欠席、失敗等で進行が遅れる場合は担当者の指示をおおぐこと。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実技トレーニング⑨ 〔彫刻&Wax up〕	実習	全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解を深める。 歯型彫刻の方法、注意点について理解を深める。
2	実技トレーニング⑩ 〔彫刻&Wax up〕	実習	全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解を深める。 歯型彫刻の方法、注意点について理解を深める。
3	実技トレーニング⑪ 〔彫刻&Wax up〕	実習	全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解を深める。 歯型彫刻の方法、注意点について理解を深める。
4	実技トレーニング⑫ 〔彫刻&Wax up〕	実習	インレーのワックスアップの方法、注意点について理解を深める。 歯型彫刻の方法、注意点について理解を深める。
5	実技トレーニング⑬ 〔彫刻&Wax up〕	実習	全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解を深める。 歯型彫刻の方法、注意点について理解を深める。
6	実技トレーニング⑭ 〔彫刻&Wax up〕	実習	全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解を深める。 歯型彫刻の方法、注意点について理解を深める。
7	実技トレーニング⑮ 〔彫刻&Wax up〕	実習	全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解を深める。 歯型彫刻の方法、注意点について理解を深める。
8	実技トレーニング⑯ 〔彫刻&Wax up〕	実習	全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解を深める。 歯型彫刻の方法、注意点について理解を深める。
9	実技トレーニング⑰ 〔彫刻&Wax up〕	実習	インレーのワックスアップの方法、注意点について理解を深める。 歯型彫刻の方法、注意点について理解を深める。
10	実技トレーニング⑱ 〔彫刻&Wax up〕	実習	全部金属冠、インレーのワックスアップの方法、注意点について理解を深める。 歯型彫刻の方法、注意点について理解を深める。
11	17In. Wax up(20分間) 14Cr. Wax up(45分間)	実習	17 インレーのワックスアップの方法、注意点について理解を深める。 14 全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解を深める。
12	14・44 彫刻 (見て)	実習	14 歯型彫刻の方法、注意点について理解を深める。 44 歯型彫刻の方法、注意点について理解を深める。
13	16・46 彫刻 (見ないで)	実習	16 歯型彫刻の方法、注意点について理解を深める。 46 歯型彫刻の方法、注意点について理解を深める。
14	26Cr. Wax up(45分間)	実習	26 全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解を深める。
15	26Cr. Wax up(60分間)	実習	26 全部金属冠のワックスアップの方法、注意点について理解を深める。

科目名 (英)	歯科技工実習Ⅳ Training of Dental TechnologyⅣ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	小島 三知長
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	1	(コマ数)		曜日/時間	水、金/5限
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院、自費技工専門の歯科技工所、歯科診療所技工室での実務経験を有し、経験豊富な教員が歯科技工技術に必要な総合的な知識・技術を身につけられるよう、デモンストレーションを交えた授業を行う。						
目的	全部床義歯の製作過程である人工歯排列(下顎法)を習得する。						
科目概要	実技評価試験用の模型製作や全部床義歯の人工歯排列トレーニングを行い、人工歯排列の「スピード」、「正確さ」を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯型可撤式模型の製作方法、製作上の注意点を理解し、製作できる。 ・全部床義歯の前歯部人工歯排列の方法、注意点を理解し、製作できる。 ・全部床義歯の臼歯部人工歯排列の方法、注意点を理解し、製作できる。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 実技試験を100点満点として評価する。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。</p> <p><input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版) 最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習: シラバスを確認し、実習に必要な器具・器材を準備して授業に臨むこと。 事後学習: 取り組んだ実習内容は、指定教科書も併せて学習すること。		
参考図書	ペラシアSA排列マニュアル(SHOFU INC.) 最新歯科技工士教本「歯科技工実習」(医歯薬出版) 第6版 コンプリートデンチャーテクニック(医歯薬出版)						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	石膏注入 〔402(U・L)2組、66T-22(L)1個〕	実習	石膏の正しい取扱い方、注意点について理解する。 石膏注入操作の注意点について理解し操作する。
2	石膏注入〔66T-22(U)1個〕 咬合器装着〔66T-22(L)〕	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 模型基底面の削除量、ダウエルピン植立位置、植立方法について理解し操作する。
3	石膏注入〔66T-22(U)1個〕 アンダーカット付与〔66T-22(U)〕	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 回転防止溝の形成位置、方法について理解し製作する。
4	石膏注入 完了 〔4022組、66T-22(L)1個、22(U)3個〕	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 石膏分離材塗布～分割・トリミングの注意点について理解し製作する。
5	二次石膏注入①〔66T-22(U)〕 排列トレーニング〔上顎前歯部〕	実習	メタルコアWax upの方法、注意点について理解する。 前歯部支台形態、臼歯部支台形態について理解し製作する。
6	仕上げ～分割①〔66T-22(U)〕 排列トレーニング〔上顎前歯部〕	実習	メタルコアWax upの方法、注意点について理解する。 メタルコアの軸面形成の注意点について理解し製作する。
7	～分割②〔66T-22(U)〕 排列トレーニング〔上顎前歯部〕	実習	メタルコアWax upの方法、注意点について理解する。 インレーWax upの方法、注意点について理解する。
8	歯型可撤式模型3個 完成 排列トレーニング〔上顎前歯部〕	実習	スプルー植立の位置、植立方法の注意点について理解する。 インレーWax upの方法、注意点について理解し製作する。
9	蠟堤調整～咬合器装着402U① 排列トレーニング〔下顎前歯部〕	実習	円錐台植立～埋没までの方法、注意点について理解する。 インレーWax upの方法、注意点について理解し製作する。
10	蠟堤調整～咬合器装着402L① 排列トレーニング〔下顎前歯部〕	実習	鑄造リングの乾燥、加熱～鑄造までの方法、注意点について理解する。 インレーWax upの方法、注意点について理解し製作する。
11	蠟堤調整～咬合器装着402U② 排列トレーニング〔下顎前歯部〕	実習	石膏の正しい取扱い方、注意点について理解する。 石膏注入操作の注意点について理解し製作する。
12	蠟堤調整～咬合器装着402L② 排列トレーニング〔下顎前歯部〕	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 模型基底面の削除量、ダウエルピン植立位置、植立方法について理解し製作する。
13	排列トレーニング〔上下顎前歯部〕	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 回転防止溝の形成～二次石膏注入までの方法、注意点について理解する。
14	排列トレーニング〔下顎臼歯部〕	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 模型仕上げ～分割までの注意点について理解し製作する。
15	排列トレーニング〔修正〕 実技試験 準備	実習	歯型可撤式模型の製作方法、注意点について理解する。 歯型トリミング、咬合器装着の方法、注意点について理解し製作する。

科目名 (英)	総合歯科技工学 I Dental Technology I	年次	2	必修科目	有	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	講義	実務経験	有		
		時間数	30				
学科・コース	歯科技工士科Ⅱ部	単位	2			開講区分	後期
						曜日・時間	月/5限
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での実務経験を有し、経験豊富な教員が、歯科技工に関する総合的な知識について授業を行う。						
目的	歯科技工士として必要な基礎力を習得するために、主要科目(有床・修復・理工・解剖)の模擬試験及びその解説講義を行い、知識を定着させる。						
科目概要	範囲を設定された模擬試験を実施し、その後に解説講義を聞くことで理解度を高める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験をもとに各自の苦手部分明確にし理解を深める。 ・苦手部分を再確認し、その内容を確実に理解する。 						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 筆記試験を100点満点として評価する。試験の内容は、知識を確認する問題(空欄補充等)、理解を確認する問題(記述等)の両方を出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	最新歯科技工士教本(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前準備として試験範囲に合わせて予習を行うこと。 解説時に教科書、資料を必ず持参すること。		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	有床模試と解説講義	講義	・有床義歯25問の模擬試験について解説講義を行い、疑問点を明確にして理解する。
2	修復模試と解説講義	講義	・歯冠修復25問の模擬試験について解説講義を行い、疑問点を明確にして理解する。
3	理工模試と解説講義	講義	・歯科理工25問の模擬試験について解説講義を行い、疑問点を明確にして理解する。
4	解剖模試と解説講義	講義	・歯の解剖25問の模擬試験について解説講義を行い、疑問点を明確にして理解する。
5	有床模試と解説講義	講義	・有床義歯25問の模擬試験について解説講義を行い、疑問点を明確にして理解する。
6	修復模試と解説講義	講義	・歯冠修復25問の模擬試験について解説講義を行い、疑問点を明確にして理解する。
7	理工模試と解説講義	講義	・歯科理工25問の模擬試験について解説講義を行い、疑問点を明確にして理解する。
8	解剖模試と解説講義	講義	・歯の解剖25問の模擬試験について解説講義を行い、疑問点を明確にして理解する。
9	有床模試と解説講義	講義	・有床義歯25問の模擬試験について解説講義を行い、疑問点を明確にして理解する。
10	修復模試と解説講義	講義	・歯冠修復25問の模擬試験について解説講義を行い、疑問点を明確にして理解する。
11	理工模試と解説講義	講義	・歯科理工25問の模擬試験について解説講義を行い、疑問点を明確にして理解する。
12	解剖模試と解説講義	講義	・歯の解剖25問の模擬試験について解説講義を行い、疑問点を明確にして理解する。
13	理工・解剖模試と解説講義	講義	・国家試験に向けた歯科理工、歯の解剖各25問の模擬試験について解説講義を行い、疑問点を明確にして理解する。
14	有床・修復模試と解説講義	講義	・国家試験に向けた有床義歯、歯冠修復各25問の模擬試験について解説講義を行い、疑問点を明確にして理解する。
15	滋慶学園統一模擬試験と解説講義	講義	・国家試験に向けた有床義歯、歯冠修復、歯科理工、歯の解剖各20問の滋慶学園統一の模擬試験を受験し、理解度を深める。